

A群溶連菌が流行しています



A群溶連菌とは

(「人食いバクテリア」と呼ばれる注意が必要な菌です)

- A群溶連菌の感染は、いずれの年齢でも起こります
- 38℃以上の発熱と喉の強い痛みが主症状の感染症です。
- 通常、患者の咳やくしゃみなどのしぶき、菌が付着した手で口や鼻に触れることによって感染します
- 特に幼児期から学童期の小児がかかることが多いです
- 妊婦さんの中でも、上にお子さんさんがいる経産婦さんの感染が多いです
- 稀ですが妊婦さんの場合、症状が出てから急速に病態が進行し(発症から24時間以内)、母子ともに命の危険があります。
(劇症型連鎖球菌感染症(STSS)といいます)

以下の症状がある場合は検査をしましょう

- 38℃以上の発熱
- 喉の強い痛み

- 体や手足に小さくて紅い発疹
- 舌にイチゴのようなツブツブができたりします(イチゴ舌)
- そのほかに頭痛、首すじのリンパ節の腫れ、腹痛や嘔吐などの腹部症状もみられます

次の症状がある場合には 劇症型連鎖球菌感染症 (STSS) を疑います

- 38°Cの発熱と強い喉の痛み
- それに加え、四肢の疼痛、腫脹、血圧低下など。
- 四肢の疼痛、腫脹、発熱などの感染の兆候が見られる場合は、速やかに医療機関を受診してください。

予防と治療について

- 予防には手洗い・マスク着用が有効です
- とくに家庭な感染は注意しましょう

- 治療は抗菌薬の投与です
- 症状が改善しても、しっかり治療することが必要です



38℃以上にの発熱と喉の痛みがある場合は速やかにかかりつけ医に相談しましょう。

妊娠中は重症化する場合があります。
速やかな検査と治療が重要です。

